



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和5年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 12
R6. 2. 29

「学ぶ」ということ（そこにいるだけで）

先日、幼稚園の保育を参観する機会がありました。「おみせやさんごっこ」を楽しんでいました。遊びの中に、学びがあるということがよくわかりました。どんなお店を開くか、商品は何にするか、店員の役割はなにか、どうしたらお客さんに楽しんでもらえるか。子どもたちがアイデアを出し合い、話し合いを重ねて、活動を高めていったことがわかりました。仲間とかかわり合い、思いを伝え、話し合っていく過程が、この後の社会生活に必要な力であるということを感じました。

小学校でも同じように、1・2年生の国語科・生活科で、おみせやさんごっこや異学年の子どもたちとの交流があります。3・4年生の社会科・総合的な学習等で、お店に見学に行き働く人の思いや工夫を聞く学習があります。インタビューをすること、調べること、遊び方や商品の説明をすること、まとめて発表すること、わかりやすい発表方法について話し合うこと、お礼を書くこと、どれも、社会で生きていくうえで必要な力です。

他の教科はどうでしょうか。足し算や引き算、ひらがなや漢字は、学校以外でも身に付けることができそうです。でも、学校で学ぶよさがあるはずですよ。

Aさんと答えは一緒だけれど、説明の仕方が分かりやすい。自分は気付かなかったけど、Bさんは表現の違いに気付いていてすごい。Cさんは、数直線をつかって説明していて……と、多様な考え方や話し方に触れることができる、楽しさがあるのだと思います。

ある教室では、「ふさいでいる」という[言い間違い]がありました。正しくは「ふせいでいる」です。そこで立ち止まって、この二つは何が違うかを考えました。そして、身体で表現して、違いを感じるように授業が進みました。仲間の[いい(よい)間違い]のおかげで、「ふせいでいる」という言葉と内容をより深く理解することができました。

学校生活は、集団生活です。子どもたちは、係や当番が必要なことを体感していきます。仲間の上手な仕事の仕方を見て学ぶことができます。仕事がきれいに、正しくできるとほめられ、自己肯定感が高まります。手を抜くと、指摘されます。縦割り活動や分団で、年上の子は、年下の子を守りながら活動します。6つの年の差と経験の差が、多少のわがままを許したり、上手に寄り添ったりするゆとりをつくります。子どもたちは、自分がしてもらったうれしさを覚えていますし、先輩のやさしい接し方を見て学ぶ時間もあります。逆に、あの行動はやめておこう、という学びも時にはあります。周りの人を見ているだけで、学びにつながっていきます。もちろん、自らそうなりたいと願って行動することで、より多く深く学べます。



まず、あの坂を上ってくるだけで、体力がつくのですから、もうけもの。学校に通う意義あり。長い人生と社会生活の基礎を学んでいるといえるのではないのでしょうか。